

1 学校教育目標

【教育目標】

- (1) 一人ひとりの可能性を伸ばし、一人ひとりの夢や目標の実現を支援する。
- (2) 自主・自立の精神を育て、主体的に進路選択ができる能力を育成する。
- (3) Think Globally, Act Locally

【大津校舎】

- 地域の期待に応える進学校としての充実を図るとともに、3キャンパス制のメリットを生かして多様な教育活動を展開し、グローバルな社会で活躍できる人材を育成する。
- (1) 自ら学び、考え、判断し、挑戦・実行していく力を育む。
 - (2) 多様な体験を通して多面的に物事を捉える力を育てることにより、豊かな人間性を育む。
 - (3) 国際教育を推進し、コミュニケーション・ツールとしての英語の習熟を図る。

【日置校舎】

- 地域の期待に応える専門学科を学ぶ学校としての充実を図るとともに、3キャンパスの連携による生徒の自主的活動を充実させ、社会に貢献できる人材を育成する。
- (1) 様々な地域連携活動をととして、自己肯定感・自己有用感の醸成を図る。
 - (2) 学校行事等において自主的活動の充実を図り、人間関係能力の向上を図る。
 - (3) 系統的・組織的なキャリア教育の推進により、一人ひとりの夢の実現を図る。

【水産校舎】

- 海に生き、海に学ぶ専門教育の充実を図るとともに、3キャンパス制のメリットを生かした連携教育活動を通じて、海を核とした産業社会に貢献できる人材を育成する。
- (1) 海に生きるための規律ある行動と体力を身につけさせる。
 - (2) 海のスペシャリストとして必要な知識・技能を身につけさせる。
 - (3) 生徒一人ひとりを大切にして、達成感や感動のある教育活動を実践する。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

【3校舎共通】

- ・県内の高校では初めてとなるコミュニティ・スクールの指定を受けてから3年が経過した。各校舎の特長を生かしながら、地域理解・地域貢献などに積極的に取り組み、「地域とともにある学校づくり」の推進に向け、しっかりした成果が表れている。
- ・生徒会活動や部活動など、3校舎制のメリットを生かした活動が活性化している。3校舎生徒会が「考動力」のスローガンの下、地元女子ラグビーチームとの交流会を開催するなど、国際理解の取組を重点的に進めた。運動部活動では、ラグビー部の全国大会出場をはじめ、9つの全国大会に出場を果たすなど大きな成果を上げた。
- ・体験乗船や農業体験に加え、野球応援、合同学習発表会、合同スポーツ大会を3校舎合同で実施するなど、学校の一体感の醸成に努めた。約7割の生徒が大津緑洋高校生徒としての一体感を感じている。
- ・ドローンによる各校舎の空撮動画を導入し学校HPの改善を図るとともに、保護者向けメールの配信回数を増やすなど、学校の情報発信の質を高める取組を進めた。
- ・インターンシップや進路ガイダンス、大学・企業訪問などを計画的に行い、キャリア教育の充実を図った。地元企業への就職を増やすことが引き続き望まれる。
- ・授業公開週間や研究授業をこれまで通り継続するとともに、小・中学校など異校種で行われる研究授業等にも積極的に参加し、授業改善に役立てることが必要である。
- ・PTA活動では、各校舎の文化祭、農高祭、すいこう祭などの行事において、校舎を越えて参加いただき、相互理解を深めることができた。今後も継続した取組が大切である。

【大津校舎】

- ・学校運営… 学校通信の発行、ホームページの活用、中学校訪問などを通じて本校からの情報発信を積極的に行っている。今後は、志願者増に向けて、中学生にとって、より分かりやすい、魅力的なホームページ等の改善に取り組む必要がある。コミュニティ・スクールの機能を活用した地域と連携した取組は充実してきており、本年度も地域の課題をテーマとした本校らしい特色ある教育活動の一層の充実を図り、進路実現につなげる必要がある。
- ・学習指導… 本校舎の特色でもある65分授業を効果的に活用し、各教科が積極的にアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業を行っており、授業評価アンケートによる生徒の授業に対する満足度は高い。本年度においても、三校舎はもちろん、中高連携の下、研究授業・研究協議を行い、教員の授業力の向上を図る必要がある。
- ・生徒指導… ほとんどの生徒が校則を守り、落ち着いた学校生活を送っているが、校則を守っていない生徒も数人いる。今後は、規則の意義を再度確認するとともに、定期的かつ組織的な校則指導に取り組む必要がある。さらに、自転車の交通マナー・ルールの遵守、校外における携帯電話の使用マナーなど、学校外においても大津緑洋高生としての自覚を持って行動できるよう継続して指導していく必要がある。
保健指導では、主体的に健康や体力の増進に努めることのできる生徒が増加しているが、検診後の事後措置がまだ徹底できていない。個別に保健指導を行い受診勧告をするなど、保健だよりや委員会活動等を活用して受診の必要性を伝えるなど、自己の健康への関心をより高める工夫が必要である。学校の安心安全の確保及び清潔感保持のため学校環境の点検・整備や掃除の指導を継続して取り組んでいく必要がある。
現在、不登校傾向にある生徒はいないが、引き続きいじめ等の未然防止や早期対応に向けて、スクールカウンセラーや教育相談関係者、学年団と連携し、組織的に取り組んでいく必要がある。
- ・進路指導… 生徒の発達段階に応じたキャリア教育を行っており、計画的・系統的に進路意識の高揚を図っている。生徒一人ひとりの進路実現に向けて、希望する進路先に応じた課外授業、小論文指導、面接指導等に各教員が熱心に取り組む、支援している。今後の課題としては1、2年の早い段階での進路目標の明確化が挙げられ、個々の生徒に早期に目的意識を持たせるなど、主体的な学びを推進するための工夫が重要であるとする。
- ・その他… グローバルな社会で活躍できる人材の育成に向けて、国際交流員による講演やラグビーの外国人選手との交流、修学旅行でのJICAや大使館訪問の機会を効果的に活用し国際理解教育を推進している。本年度は、中高高校(韓国)との交流をテーマ型交流として計画的に取り組むなど交流内容の充実を図る必要がある。

【日置校舎】

- ・学校運営… 地域との交流、地域を学習の場とした地域連携活動や学校開放に努めてきた結果、校内外での農業学習は充実し、生徒の自立に向けた成長に大きく繋がっているが、今後、教員、生徒の負担を含め、より教育効果の高い地域連携活動への検証と見直しが必要である。
入学定員の充足に向けては、体験入学や各中学校での進学説明会、各中学校への個別訪問、HPの活用、マスコミ等を通じた情報発信など継続的な取組を行っているが成果は十分とは言えないため、今後も地道な活動と積極的な情報発信を行う必要がある。
- ・学習指導… 「分かる授業」の取組が着実に実践されており、放課後等の個別指導、朝学や繰り返し学習により生徒の学習成績は向上している。今後若手教員の授業力の向上により更なる学習指導の充実が期待できる。
地域資源を活用した題材や地域の課題解決に向けた取組など地域をキャンパスとした日置校舎独自の学習活動により、生徒に強い探求心や問題解決能力を身につけさせていかなければならない。
- ・生徒指導… 全体的に基本的な生活習慣が確立されつつあるが、自ら考えて行動できるまでには至っていない。生徒会活動や学校行事など生徒を中心に積極的に計画、実施することで行動力と実践力を身につけさせなければならない。
全校生徒が順番に校門に立つ「さわやか挨拶運動」を継続することで、生徒間でのコミュニケーションを大切にしようとする意識を高め、来校者に対して、更に明るい挨拶ができるようになることを期待する。
- ・進路指導… 年間指導計画に従い、きめ細かな面談や個別指導などの取組を行い、生徒が希望する進路先を早い段階で決定することができ、進路決定率100%を達成できた。今後も1年次から外部講師の招へいやキャリアガイダンスなど3年間を見通したキャリア教育への様々な取組を充実させていかなければならない。
2年次のインターンシップについては、学科や希望進路に関連した業種へのインターンシップが体験できるよう更なる対応が必要である。生徒が早い段階に高い進路目標を設定できるようにキャリア教育の更なる充実を図る。
- ・その他… 保健体育について、健康診断及び事前事後の保健指導の充実により、事後措置における受診率が一昨年度に比べてはるかに上がった。しかし、まだ不十分であるので、継続して指導をする必要がある。

【水産校舎】

- ・学校運営… 地域と連携した活動では、県・市・漁協などと連携した、沿岸漁業後継者育成の取組やアワビの放流と育成場整備の取組、ナルトビエイの駆除作業など、地域の水産業の活性化に貢献するとともに、学習活動・体験活動の充実を図ることができた。また、地元漁協女性部と連携し、新たな合同実習・課題学習に取り組んだ。こうした特色ある活動をより積極的に、効果的に情報発信することが必要である。
- ・学習指導… 学習状況、出席状況ともに良好であったが、苦手科目の取組状況に引き続き課題がある。資格取得では、専攻科において、約半世紀ぶりに1級海技士の合格者を出すなど、大きな成果があった。今後の学習意欲の向上に繋げたい。
- ・生徒指導… アンケートや相談活動、情報共有等の充実など、未然防止の取組の強化により、大きな問題行動は減少したが、些細なことで指導する場面が増えており、規範意識の向上に向け、より細かな指導が必要である。
- ・進路指導… 進路面談や事前指導等の充実により、進学・就職ともに、内定率100%を達成できた。1年次・2年次での指導のさらなる充実をめざす。また、全体の約73%の生徒が、水産漁業関係に進学・就職しており、専門高校の特色を生かしている。
- ・その他… 生徒募集では、7月・12月に県下の中学校を訪問し、生徒募集・学校PRを積極的に行うとともに、新たな取組として12月に生徒保護者向け学校説明会を開催した。一次募集の志願倍率は海洋技術科1.4倍、海洋科学科0.6倍であった。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

【3校舎共通】

- 学校運営協議会での議論を踏まえながら、長門市唯一の公立高校であり、3校舎を有する本校の特長を生かした、「地域とともにある魅力ある学校づくり」を推進する。
- 開校10周年を控え、大津緑洋高校の『新たな10年』を見据えたビジョン(基本計画)の策定に向けて、課題の抽出と基盤づくりに着手する。
- 各校舎の特徴を生かした教育活動を展開するとともに、体験乗船や農業体験に加えて、3校舎が一体となる学校行事を継続・充実させ、校舎間連携教育活動及び学校の一体感の醸成に努める。
- しっかりとした情報発信を図る。特に地域の小・中学校の児童生徒、保護者、教員には創意工夫した情報の発信に努める。
- PTA総会やその他のPTA行事等において、3校舎間の保護者が共通理解・相互理解を深める企画を実施する。

【大津校舎】

- 学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールの機能を活用した学校運営の充実
 - ・ コミュニティ・スクールの機能を効果的に活用して教育の質の向上を図り、教育目標の達成をめざす。具体的には、地域や地元企業等との連携の下、生徒が各業務の現場で実践的・専門的な体験を行ったり、地域の課題解決に取り組んだりする学習活動の充実を図ることで、自己の進路選択の一助とし、進路実現につなげる。
 - ・ ホームページや学校案内パンフレット等が保護者、中学生、地域の方等にとって分かりやすく魅力的なものとなるよう、学校運営協議会委員の意見を参考にしながら改善に努め、本校の教育活動の理解を促すとともに、志願者の増加につなげる。
- 基礎・基本の徹底と学力向上を図る学習指導の充実
 - ・ 朝学習や週末課題、課外授業等の徹底を図り、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を充実させる。特に、朝学習については、教員の共通理解を図りながら、効果的な学習となるよう課題の内容等を工夫する。
 - ・ 65分授業を活かしてアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業など、主体的・対話的で深い学びを促す授業を実施することで、基礎・基本の定着、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
 - ・ 生徒の学習意欲をより高めるため、分かりやすい授業づくりに向けて積極的に研究授業・研究協議に取り組み、教員の授業力を向上させる。
- 主体的な進路意識の高揚を促す進路指導の充実
 - ・ 大学の出前講義や大学訪問、インターンシップ等の体験学習を生徒の発達段階に応じて実施し、生徒の主体的な進路意識の高揚を図る。
 - ・ 生徒が自らの進路を主体的、段階的に考えていくことができるよう、キャリア教育の指導計画を見直し、系統的・計画的な指導体制を構築する。特に保護者会の形態や内容など、1、2年次の進路指導を充実させる。
- 規範意識の向上と豊かな心をはぐむ生徒指導の充実
 - ・ 生徒は概ね落ち着いているが、一部の生徒に服装の乱れや交通マナー、携帯電話の使用に問題があることから、自己の行動を自ら律する力の育成に組織的に取り組み、規範意識の向上を図る。
 - ・ 学校行事や生徒会活動、部活動、地域と連携したボランティア活動等を活性化することで、生徒の自己有用感を高め、リーダーとしての主体性や自主性を育成する。
- 主体的な健康管理を促す保健指導の充実
 - ・ 生徒が主体的に健康や体力の保持増進に努めることができるよう、健康診断の結果等を踏まえて継続的に指導していく。
 - ・ 環境整備について、安全面と同時に衛生面から定期的に点検し、改善が必要な部分は保健委員会を中心とした活動として全校生徒で取り組む。
- 生徒一人ひとりの状況に応じた支援体制の充実
 - ・ 全教職員やスクールカウンセラー、中学校等との連携を進め、個人面談や定期的なアンケートの実施によりいじめ等の未然防止や早期対応に取り組み、個々の生徒の課題解決に向けて、きめ細かな支援を実施する。
- グローバルな社会で活躍できる人材を育む国際教育の充実
 - ・ 中馬高校(韓国)と地域が抱える課題をテーマとして継続的な協議を行うことで「Think Globally, Act Locally」を実践し、グローバルな社会に求められる能力を育成する。
 - ・ 国際交流員による講演会やラグビーワールドカップ等を活用した国際交流を進め、異文化理解の促進を図る。

【日置校舎】

- 分かる授業の実践に努め、学力の向上を図る。<教務課>
 - ・ 生徒の授業評価を反映した授業改善に取り組む。
 - ・ 全校体制での朝学の実施、繰り返し学習に重点を置き、学力の確実な定着を図る。
 - ・ 体験的な学習、作業的な学習を取り入れ、生徒の活動意欲を高める。
- 人間関係能力の向上を図る。<生徒指導課>
 - ・ 良好な人間関係を構築するための基盤となる基本的生活習慣の確立を図る。
 - ・ 3キャンパス制のメリットを生かした体験活動を実施し、3キャンパスの一体感の醸成を図るとともに、他者理解の力を高めていく。
 - ・ 生徒会を中心とした交流を促進し、協調性やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、生徒の感性を磨く時間の設定に努める。
- ヘルスプロモーションの視点に立った健康教育の充実を図る。<保健体育課>
 - ・ 規則正しい生活リズムの確立と家庭学習習慣の定着を図る。
 - ・ 生徒の情報共有に努め、健康観察・健康相談、教育相談等の充実を図る。
 - ・ 健康診断及び事前事後の保健指導を充実させ、事後措置における受診率の向上を図る。
- 系統的・組織的なキャリア教育を推進する。<進路指導課>
 - ・ 3年間を見通した進路指導により、望ましい職業観・勤労観を育てる。
 - ・ インターンシップや進路ガイダンス、学校・企業見学会を通して、自己理解を深め、進路意識の高揚を図る。
 - ・ きめ細やかな面談や課外授業、個別指導等を行い、個々のニーズに対応した進路実現を図る。
- 地域との連携を強化する。<農業部>
 - ・ 「学校・地域連携協議会」や地元の関係機関との連携を強化する。
 - ・ 地域の課題を題材にしたプロジェクト学習を推進し、地域連携による研究活動の充実を図る。
 - ・ 6次産業化に向けて、直売所を活用した生産から加工、販売までの一貫した教育を展開する。

【水産校舎】

- 基礎学力の向上及び授業規律の確立
 - ・ 授業アンケート等を踏まえた、不断の授業改善による基礎基本の定着を図る。
 - ・ 生徒の実態についての共通理解と協働実践による、毅然とした(授業報告書等)且つ粘り強い指導をめざす。
 - ・ 本校舎で学ぶ目的意識の確立と、それに基づく各種資格取得や検定合格に向けた取組を推進する。
- 開発的・予防的な生徒指導の取組
 - ・ AFPY等を活用した、より良い人間関係づくりとコミュニケーション能力向上に向けた取組を進める。
 - ・ 生徒会主体の行事の立案や地域行事への積極的参加を通じて、本校教育活動を広く情報発信する。
 - ・ 学校、家庭、地域の連携を密にし、規範意識の向上によるいじめ等問題行動の未然防止と早期対応を図る。
- キャリア教育の充実による進路指導の推進
 - ・ 2年生全員へのインターンシップの実施等による、個々の進路に向けた目標の早期設定を促進する。
 - ・ 生徒の進路希望情報の教員間での共有化と就職・進学希望者に対する十分な情報提供を行う。
- 地域連携(コミュニティ・スクール)の取組
 - ・ 本校舎の特色を生かした産学公連携を通して、地域の活性化や社会へ貢献する取組をさらに推進する。
 - ・ 昨年度から取り組んでいる地元漁協女性部との連携をさらに進め、新たな商品開発に挑む。
- 積極的な情報発信
 - ・ 中学校訪問やHPの充実、学校説明会等による、保護者・地域・県内中学生への積極的な情報発信を展開する。

【生徒会チャレンジ目標】

- 探究心 ～ more than best ～
 - ◆ 昨年度の目標「考動力」から発展し、学校生活で必要なことを自ら探究する。
 - ◆ 三位一体(三校舎/学校・地域・企業)の幅広い視野で探究心をもって行動する。
 - ◆ 地域における国際交流等に積極参加し、限界を決めずにチャレンジする。

4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
3 校舎共通						3校舎共通	
総括	3校舎独自教育の充実	・普通科、農業科、水産科が独自の教育資源と立地を生かして、各校舎の使命を踏まえた特色ある教育活動を展開する。	学校評価アンケート等における「校舎の特色を生かした教育活動の推進」に係る項目についての肯定的な回答 4 70%以上 3 65～70% 2 60～65% 1 60%未満	4	・全国的にも数少ない、3学科を有する学校であるという強みを生かし、各校舎切磋琢磨して、特色ある教育活動をさらに充実させていきたい。 【大津】生徒 87.7%・保護者 75.7% 【日置】生徒 88.0%・保護者 91.8% 【水産】生徒 95.8%・保護者 97.3%	・全国から注目されている学校として、とても注目されている。 ・各校舎、熱意をもって取り組んでいる。	A
	連携教育活動の充実	・学校行事や生徒会、部活動をはじめとした3校舎の連携協働の推進と学校としての一体感の醸成を促進する。	学校評価アンケート等における「3校舎の連携した教育活動の推進」に係る項目についての肯定的な回答 4 70%以上 3 65～70% 2 60～65% 1 60%未満	4	・生徒会では、ラグビーW杯を起点とした国際交流等に取り組み、部活動では、IHに出場するなど、3校舎制のメリットを生かした活動が活性化している。 ・さらなる連携を求める意見もあり、今後も学校の一体感のさらなる醸成に努めたい。 【大津】生徒79.7%・保護者72.8% 【日置】生徒66.0%・保護者70.6% 【水産】生徒79.0%・保護者83.6%	・低い項目について分析する必要あり。 ・保護者の連帯感をもったイベントが必要。 ・部活の支援体制に改善の余地あり。 ・W杯、中馬高校との交流など特色ある取組が出来た。キャンパスが離れており、物理的に一体感の醸成は難しい。	B
	コミュニティ・スクールの推進	・地域と一体となった教育活動の充実を推進する。	4 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることが十分にできた。 3 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることができた。 2 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることがあまりできなかった。 1 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることができなかった。	3	【大津】 ・「長門学」において、地元理解の深化のため、地域人材・資源を活用し、金子みすゞさんの詩の映像化に取り組んだ。 ・地元企業等の協力を得ながら、持続可能な陸上養殖水槽の研究に取り組んだ。 ・H28に地元企業の協力を得て、地元食材を活用・開発した「ちくまる」(ハンバーガー)の商品化が実現し、PR活動を行った。 【日置】 ・1月末までに地域の農家、関連産業、小学校、保育園等の40以上の団体と連携し、活動回数は60回を超えている。また、新しい連携活動にも着手し、地域をフィールドとした学習活動が充実している。 ・農高夢市場は、1月末までに27回実施、2,199人の来店者があり、好評を得ている。 ・農業クラブ連盟大会プロジェクト発表において、畜産班が地域連携の取組を発表、3年連続で全校区大会に出場した。 【水産】 ・本年度50の地域連携計画を立て、47の活動が実施できた。 ・本年度、科学科フードコースと仙崎漁協女性部とが連携し開発したアカモクの新商品「炙りアカモク」が、県水産加工展において「長門市長賞」を受賞した。	・今後は、生産から消費へ輪足を移し、付加価値をどう付与するかを検討課題に。 ・オリ・バラへ向け、学校からの助力をいただくとともに、行政からも学校支援したい。 ・コミスクに子供たちの思いを入れ、更なる活性化を望む。 ・長門学は、生徒に課題を見つけさせ、解決策を考えさせると意義がある。みすゞさんの詩についても若者らしい解釈を。 ・日置、水産の活躍を小中学校に知らせることが志願者増に繋がる。 ・保護者が積極的に活躍できるように、生徒はコミスクで十分に地域貢献をしている。 ・KY学習で生徒も共に安全対策を。 ・日置、水産の取組は素晴らしい。大津校舎も積極的に地域行事に参加して欲しい。	B
	いじめ防止対策の推進	・学校いじめ防止基本方針を周知し確実な実施を図る。	4 開発的・予防的な生徒指導に取り組み、学校適応感を十分に向上させた。 3 開発的・予防的な生徒指導に取り組み、学校適応感を向上させた。 2 開発的・予防的な生徒指導に取り組んだが、学校適応感があまり向上しなかった。 1 開発的・予防的な生徒指導に取り組んだが、学校適応感が向上しなかった。	4	・「学校に適應している生徒の割合」(Fitアンケート結果より) 【大津】R1①97.9% ②97.2% 【日置】R1①82.2% ②91.1% 【水産】R1①91.0% ②97.5% ・各校舎とも90%を超え、好ましい傾向にある。 ・学校行事や部活動、HR活動等を通じて、絆づくり・居場所づくりの取組、自己肯定感・自己有用感のさらなる向上に努めたい。	・低い項目について分析する必要あり。 ・「行きたい学校」となってもらいたい。 ・現状に甘んじることなく、常にアンテナを張って早期対応を。生徒の心情を必ず汲んで指導してほしい。	B
	新たな本校10周年を見据えた活動	・これまでの取組の検証を行い、次の10年に向けた基盤づくりに取り組む。	4 取組の検証を行い、新たな10年に向けた基本計画を策定した。 3 取組の検証を行い、新たな10年に向けた基本計画の策定に着手した。 2 取組の検証を行い、課題を見出した。 1 取組の検証を行うに至らなかった。	3	【大津】 ・Society5.0の時代に求められる人材の育成に向けて、学校アンケート等を基に各教育活動を検証しながら長門の地にある普通科としての在り方について検討し、10年先を見据えたビジョンの作成に取り組んでいる。今後は、カリキュラムの見直しを行う予定である。 【日置】 ・地域をフィールドとして地域産業や関係団体との連携を推進し、農業、食品加工や福祉、保育、調理等の生活分野の専門的な知識や技術を身に付けさせ、地域に愛着を持ち、地域の問題解決に貢献し、将来の地域を支えることのできる農業や地域産業の後継者の育成をめざす。 ・取組を積極的に発信し、緊急の課題である生徒募集に繋げる。 【水産校舎】 ・全国的にも数少ない、3・4級海技士と1級小型船舶操縦士の養成施設であること、全国唯一の水産大学が県内にあること、地域に根差した栽培・食品コースを備えていることなどの本校舎の強みを生かして、地域産業の期待に応えるとともに、水産教育の魅力を広げ発信することにより、これからの産業の担い手の確保・育成をめざす。	・大津校舎は、国公立への進学率(合格者数)を評価するだけでなく、難関私大対策も含め、多様なニーズに応じべくカリキュラムの見直しは是非行われるべきである。 ・日置、水産では、生徒とともに地域の課題を探り、具体的な取組を考えることが大切。 ・もっと地域の方が行ける取組を。例えば「大津緑洋レストラン」など。 ・輝かしい成績・成果と裏腹に定員割れという問題を突き付けられている。魅力ある学校とは何か、生徒・保護者・教職員で、本気で考えてみるのも良いかも。	B
働き方改革の推進	・ノー残業デーや校務支援システムの導入など具体的な改善策を実施する。	4 時間外業務平成28年度比30%以上削減した。 3 時間外業務平成28年度比15%～30%削減した。 2 時間外業務平成28年度比0%～15%削減した。 1 時間外業務平成28年度比削減できなかった。	3	・4～12月の時間外業務の平均 【大津】58.6時間(H28比▲26.5%) 【日置】51.5時間(H28比▲12.0%) 【水産】40.5時間(H28比▲20.5%)	・部活動の取り扱いが課題。 ・機械や物を作っているのではない。割り切れない問題である。	B	

		大津校舎		大津校舎			
学校運営等	大津校舎	保護者・地域の理解を得ながら、地域の期待に応える学校運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会等の意見を参考に、学校運営を見直し、改善に取り組む。 進路説明会や大津校舎通信等の機会をとらえて、本校の魅力を地域や中学校、保護者へ積極的に情報発信し、志願者数の増加につなげる。 	<p>(アンケート項目)</p> <p>「学校からの情報は保護者・地域に十分に提供されている。」</p> <p>4 [学校評価アンケート(肯定的意見) 70%以上]</p> <p>3 [学校評価アンケート(肯定的意見) 65~70%]</p> <p>2 [学校評価アンケート(肯定的意見) 60~65%]</p> <p>1 [学校評価アンケート(肯定的意見) 60%未満]</p>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会での意見を参考に、地域と連携した教育活動等を中心として大津校舎通信を作成し、地元自治会への配布及び学校HPに掲載した。 ホームページは、学校運営協議会の意見を基に、本校舎の特色が分かりやすく、将来をイメージすることが出来る物となるよう内容の改訂に取り組んだ。 学校説明会だけでなく、美津市や下関市の中学校を訪問し、本校の良さ発信した。 <p>【アンケート結果(肯定的意見)】</p> <p>保護者:73.3%</p>	<ul style="list-style-type: none"> HP改訂は高く評価できるが、行事だけでなく、日常の様子やつゆやき等も紹介すると良い。 大津校舎通信や文芸部・生徒会だより等の紙媒体を中学校に送付することも必要。 国際交流は素晴らしい取組であった。 学習発表会の体験発表「医療現場におけるロボットの可能性」は近年の中で際立っており、理想のインターンシップと言える。 陸上養殖水槽の研究活動も素晴らしい、今後が期待される。 様々な体験を通して、子どもたちが成長する。 中学校での進学説明会は企業でのプレゼンテーション、他校に負けない魅力あるプレゼン。 HPの刷新は大変良い。作ったことに満足せず、さらに面白いものを。 HPの刷新は大変良い。作ったことに満足せず、さらに面白いものを。 普通科は確かに勉強が大事だが、もっと地域貢献できる。例えば、夏休みに小学生に宿題を教えたり、子ども食堂と連携したり、アイデア次第では。憧れられる高校生になってほしい。 	A
		校舎間や地域との連携促進による教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 3校舎の特色を生かしながら連携して取り組む学校行事や生徒会活動、研究授業等において、地域との連携・協働を進め、教育活動の充実を図る。 	<p>(アンケート項目)</p> <p>「3校舎や地域との連携が進み、特色ある教育活動が行われている。」</p> <p>4 [学校評価アンケート(肯定的意見) 70%以上]</p> <p>3 [学校評価アンケート(肯定的意見) 65~70%]</p> <p>2 [学校評価アンケート(肯定的意見) 60~65%]</p> <p>1 [学校評価アンケート(肯定的意見) 60%未満]</p>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> カナダの高校生とスカイプを活用しながら、長門市の紹介等を行うとともに、郵便局の協力により、長門市の絵葉書を送るなど、地域をテーマとして交流を深めた。 ラグビーカナダチームのウェルカムセッションにスタッフとして運営に携わるとともに、選手との交流を行った。 夢の実現に向けて、地元企業の協力を得て実施した職場体験での学びを基に探究学習を行い、その成果を3校舎合同の「学習発表会」で発表した。 地元企業等の協力を得ながら水産業の活性化に向けた商品開発や陸上養殖水槽の研究活動に取り組んだ。 授業公開、フォローアップ研修や中高連携で行う研究授業・研究協議等の機会を活用して3校舎間はもちろん、中高連携で授業改善に取り組んだ。 <p>【アンケート結果(肯定的意見)】</p> <p>生徒:79.7%、保護者:72.8%</p>		
	総務	保護者参加型PTA活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌・学年と連携しPTA総会に工夫を加え、総会出席率の向上を図る。 	<p>4 PTA総会90%以上の出席率であった。</p> <p>3 PTA総会80%以上の出席率であった。</p> <p>2 PTA総会70%以上の出席率であった。</p> <p>1 PTA総会60%以上の出席率であった。</p>	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> 出席率は73%であった。出席率は減少傾向にあることから、総会の内容に魅力的な企画を加えるなど検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による合唱や吹奏楽部の演奏などを発表することも。 別日を設ける。 合唱コンクールに保護者・教職員が出るなど何かアイデアを… 	C
	教務	学習習慣の確立と主体的な学びに対する積極的な支援	<ul style="list-style-type: none"> 学力の二極化に対応するため、朝学習や小テスト等を利用して基礎学力を定着させる。 生徒一人ひとりが積極的に授業に参加できるよう、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善を図る。 	<p>4 授業評価アンケート「先生の授業に満足している」の項目において生徒の80%以上が肯定的意見であった。</p> <p>3 授業評価アンケート「先生の授業に満足している」の項目において生徒の75%以上が肯定的意見であった。</p> <p>2 授業評価アンケート「先生の授業に満足している」の項目において生徒の70%以上が肯定的意見であった。</p> <p>1 授業評価アンケート「先生の授業に満足している」の項目において生徒の70%未満が肯定的意見であった。</p>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> 1・2学期授業評価アンケート「先生の授業に満足している」の項目において98.8%の生徒が肯定的意見であった。 アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善に向けて研究授業に積極的に参加した。また、本年度は県主催のアクティブ・ラーナー研修(年間研修)に2名の教員が参加しており、次年度は、この研修成果を踏まえて、全教員の授業力向上に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の使い方とアクティブ・ラーニングとの関係性も見直しや検討が必要。 HPの取組は素晴らしいが、今後、生徒が更新に関わることを考えてはどうか。 	
		地域や保護者に対する情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> 緊急メールの積極的な活用により、保護者への情報発信の充実を図る。 大津校舎ホームページのタイムリーな更新により、地域や保護者に対する情報発信を行う。 	<p>4 ホームページを平均週1回以上更新し、地域や保護者に積極的な情報発信ができた。</p> <p>3 ホームページを平均2週に1回以上更新し、地域や保護者にある程度、積極的な情報発信ができた。</p> <p>2 ホームページを平均月に1回程度の更新となり、地域や保護者にあまり情報発信ができなかった。</p> <p>1 ホームページを平均月に1回未満しか更新できず、地域や保護者への情報発信も不十分であった。</p>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新については12月16日現在で70回(平均週1.2回)更新した。また、大津緑洋高校トップページの改修にあわせて、大津校舎のページも編集を行った。今後も保護者や地域の方々に積極的に情報を発信していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊員や県外移住者の方の話を聞き、長門の課題を見つけ解決策を探るというのも長門市のひとつと考えられる。 	A
		地域の文化への理解と国際教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 長門学において地元の人材を講師として招聘し、地元への理解をさらに深化させる。 地域の活性化をテーマとした韓国中馬高校等との交流事業の充実を図り、国際理解教育を推進する。 	<p>4 長門学や国際交流の授業や行事の評価において80%以上の生徒が満足したと回答した。</p> <p>3 長門学や国際交流の授業や行事の評価において70%以上の生徒が満足したと回答した。</p> <p>2 長門学や国際交流の授業や行事の評価において60%以上の生徒が満足したと回答した。</p> <p>1 長門学や国際交流の授業や行事の評価において60%以下の生徒しか満足できなかった。</p>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> 8月23,24日に韓国中馬高校を訪問し、参加生徒は大変満足していた。12月の中馬高校の来訪は先方の都合で中止となったが、グリーティングカードとストラップを作成・送付したところ、中馬高校からもカードが届くなど交流は継続している。今後もLINE等を使いながら年間を通じた交流を継続させていく予定である。 長門学は2学期に金子みすゞの詩の映像化に取り組んだ。全生徒がフィールドワークを行うなど、主体的に探究的な学習に取り組む、地元への理解を深めた。 3月は国際交流員による講演会を実施する予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> HPは良くなった。継続をお願いする。 HPの更新は大変、頑張ってもらいたい。欲言わば、大会の結果(写真)や新聞、TVの掲載も入れていただくと良い。 	
		生徒指導	基本的な生活習慣の確立(『形』)	<ul style="list-style-type: none"> 校門指導や服装・頭髪検査を組織的・定期的に行い、高校生らしい清潔感のある服装・頭髪、着こなし等、生徒心得の遵守に向けた指導の徹底を図る。 全校集会等の機会を活用して、時間の厳守や感謝の気持ちと思いやり、その場に応じた挨拶について継続的な指導を行う。 	<p>4 具体的方策に沿った指導により、9割の生徒に生活習慣の確立を促すことができた。</p> <p>3 具体的方策に沿った指導により、7割の生徒に生活習慣の確立を促すことができた。</p> <p>2 具体的方策に沿った指導を行ったが、生活習慣の確立を促すには至らなかった。</p> <p>1 具体的方策に沿った指導を十分に行うことができなかった。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒が高校生らしい頭髪・着こなしをしているが、注意されないと直さない生徒が1割強いる。引き続き1割になるよう指導を継続していく。 挨拶についてはほとんどの生徒ができてはいるが、習慣として身に付いていない生徒もいる。引き続き指導を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 他市の高校生と比べ、これほどきちんとした生徒はいないと誇っても良い。
	規範意識の醸成(『心』)	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室を活用し、傘差し運転、並進等の指導を行い、交通法規の遵守やマナーの向上に努める。 情報モラル教室等を行い、携帯電話やSNSの正しい使い方等に関する指導の徹底を図る。 各学校行事を活用し、大津緑洋高校生としての自覚や誇りの醸成を促し社会の一員として道徳心の向上を図る。 	<p>4 交通マナーや携帯電話の利用等について何度も指導を受ける生徒はいなかった。</p> <p>3 交通マナーや携帯電話の利用等について何度も指導を受ける生徒は8名以下であった。</p> <p>2 交通マナーや携帯電話の利用等について何度も指導を受ける生徒が9名以上であった。</p> <p>1 具体的方策に十分取り組むことができなかった。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> 携帯電話の不適切な使用により、何度も指導を受ける生徒が数名いた。情報モラル指導と併せて継続的な指導が必要である。 交通マナーの向上や自転車の鍵掛の徹底に向けて継続的な指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> スマホ等への依存は社会問題となっている。家庭としても連携して対策をしていきたい。 	B	

生活支援	保健体育	自己の健康意識の向上と運動習慣の改善・定着	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な身体測定を通じて生活習慣を見直す指導を行い、自己の健康意識の向上を図る。 健康の保持増進という視点から掃除指導を行い、環境整備に努めさせる。 スポーツテストや体育的行事を通じて体力の向上に向けた意識の醸成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 本校舎が健康や体力の増進に努めているとのアンケート結果が75%以上であった。 3 本校舎が健康や体力の増進に努めているとのアンケート結果が65%以上であった。 2 本校舎が健康や体力の増進に努めているとのアンケート結果が55%以上であった。 1 本校舎が健康や体力の増進に努めているとのアンケート結果が55%未満であった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 授業や身体測定・学校行事等において、健康の保持増進や体力向上に向けて、運動習慣を定着させることや体力レベルを高めることの重要性について、昨年以上に指導してきたが、健康や体力の増進に努めている者は、73.3%(昨年比-8)にとどまった。生徒が自らの健康について考えを深める活動を工夫していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが好きな生徒は自己肯定感が高く、明るい子が多いように感じる。 健康診断事後措置率については、本人の意識、保護者の認識が一番の理由と思われる、啓蒙の継続が大切。 教育相談については、分析結果と不登校生徒がいらないことから、高い評価であって良い。 	B
		健診結果に基づく事後措置率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業前に受診状況を踏まえて個別に保健指導を行う。 長期休業前に担任から検診結果を保護者に伝え、受診の協力を依頼する。 受診状況を長期休業後に把握し、担任と連携して個別に保健指導を行う。 学校保健安全委員会の結果を保健委員を通じて生徒へ反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 事後措置率が70%以上であった。 3 事後措置率が60%以上であった。 2 事後措置率が50%以上であった。 1 事後措置率が50%未満であった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 事後措置率は心臓100%、腎臓66%、視力75.5%、歯科62.5%、耳鼻科33.3%、眼科52.9%、という状況である。(平均65.0%) 再受診が進まない要因として、「部活動や学習で時間がない」「受診の必要性を感じていない」などがあつたが、以下の活動により、受診状況が以前より改善された。今後も以下の活動を継続し、未受診者への対応を行っていく。 ①個別に保健指導を行い受診勧告をするともに、部活動顧問や担任と連携する。 ②保健だより、委員会活動等とおして受診の必要性を理解させる。 ③保健体育の授業や学校行事等を活用して自己の健康に対する関心を高めるようにする。 		
		教育相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> SCとの効果的な連携を図り、生徒の学校不適応等への対応や未然防止に努める。 教職員の研修会等を通してカウンセリング技術や指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 SCとの効果的な連携を図り、計画的に教育相談会議を実施するなど学校不適応生徒等支援の充実が十分深まった。 3 SCとの連携を図り、適宜教育相談会議を実施することで学校不適応生徒等への支援の充実が図れた。 2 SCとの連携を図り、教育相談会議を実施することで学校不適応生徒等への支援がある程度できた。 1 SCとの連携が不十分で、教育相談会議の回数も少なく学校不適応等生徒への支援に課題が残った。 	3	<ul style="list-style-type: none"> SCや地域Ooと連携の上、ケース会議を開くことにより、綿密な情報交換を行うことができ、個別の生徒支援につながった。 学期毎にFItアンケートを踏まえた教育相談会議を開催したことにより、学年や生徒課との連携を図りながら共通の視点に立った支援を進めることができた。 教職員研修会の実施により、「通級による指導」についての理解や見識を高めることができた。 不登校の生徒はいないが、今後も未然防止や早期対応を図るべく情報交換を深めたい。 		
キャリア支援	進路指導	キャリア教育の一層の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演や職場体験学習を通して、職業観や将来のビジョンを育てるとともに自己の適性について理解を深める。 出前授業や大学訪問を積極的に取り入れ、将来自分が学びたいこと、学ばなければならないことを考察する機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 職場体験学習や出前授業等が進路選択に役立っているとの回答が80%以上であった。 3 職場体験学習や出前授業等が進路選択に役立っているとの回答が70%以上であった。 2 職場体験学習や出前授業等が進路選択に役立っているとの回答が60%以上であった。 1 職場体験学習や出前授業等が進路選択に役立っているとの回答が60%未満であった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 文理選択を前に1・2年生を対象として、外部講師の講演会を開くとともに、教務課と連携を図りながら説明会を実施した。 2年生の職場体験は、2カ所新規の事業所を開拓した。職場体験実施後は、まとめ学習を行ったことで、将来の進路選択に繋げることができた。 校内で開催した大学説明会では、山医大教育学部、教育学部に15名、九工大に25名の生徒が参加し、進路意識を高めた。8月には1年生全員で山口大学のオープンキャンパスに参加した。県内教員志望者への説明会へ3名が参加し、理解と関心を深めた。8月には山医教育学部の学生を招き、模擬面接指導を行い推薦入試に対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生(大学1年生)の体験談を直接、間接(アンケート等)に聞く機会があっても良い。PTA総会の際に在校生も交えたと総会の出席者も見込まれるのでは。 夏季休業前の進学ガイダンスは、1年生にこそ行われるべきだと思う。 	B
		進学指導体制の連携強化と改善	<ul style="list-style-type: none"> 学年やクラス担任との連携を図りながら、生徒の実態とニーズに応じた進学ガイダンスを提供する。 個々のニーズに適した課外授業や個別指導を教員間で連携をとりながら行い、学習効果の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 連携を図ることで生徒のニーズ等に応じたガイダンスや課外授業等を大いに充実させることができた。 3 連携を図ることで生徒のニーズ等に応じたガイダンスや課外授業等を充実させることができた。 2 連携を図ったが、生徒のニーズ等に応じたガイダンスや課外授業等の充実があまりできなかった。 1 連携を図ることができなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の大学入試に向けて英語科と連携しながら1・2年生を対象として校内で英語民間試験を実施した。共通テストへの英語民間試験導入は見送られたが、試験結果を分析し今後の対応について検討を進めている。また、夏季休業前には講師を招き、2・3年生を対象として、「夏季休業を活用した効果的な学習方法」をテーマにガイダンスを行った。 課外は、教員数の関係できめ細かな講座の開設ができない科目もあった。今後、生徒のニーズに可能なかぎり対応できるよう工夫する必要がある。 調査前には土日活用で、開講希望の多い授業の補講を行い、学力向上に努めることができた。 		
事務		学校運営の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 事務員と教員の連携を強化する。 校舎間の予算管理を円滑に行う。 適切な予算執行により、学校教育目標達成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 3つの具体的方策が十分に達成されている。 3 2つの具体的方策が十分に達成されている。 2 1つの具体的方策が十分に達成されている。 1 どの具体的方策も十分に達成されなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 消費増税を見据えた計画的な予算執行や校舎間の適切な予算管理を行うことができた。また、教員との連携により、円滑な学校運営に資することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> きわめてきちんと行われているし、接遇も丁寧で申し分ない。 電話の対応については、いつも言葉にも気を遣われている。 	B
		接遇の向上	<ul style="list-style-type: none"> 電話応対や来客に対する接遇の向上(お待たせしない)を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 電話応対や来客等の接遇が大幅に向上した。 3 電話応対や来客等の接遇が向上した。 2 電話応対や来客等の接遇があまり向上しなかった。 1 電話応対や来客等の接遇が全く向上しなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 行事予定や職員動静の共有を図ることで電話や来客への対応が向上した。引き続き、接遇向上に対する職員の意識啓発に努めることが必要である。 		

		日置校舎			日置校舎		
学校運営等	日置校舎	地域とともにある学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会をはじめとして関係機関等との協働体制を強化し、学校の課題解決に向けた取り組みを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 地域連携活動の見直しと検証を大いに実施することができた。 3 地域連携活動の見直しと検証を概ね実施することができた。 2 地域連携活動の見直しと検証をあまり実施できなかった。 1 地域連携活動の見直しと検証をまったくできなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携活動は予定通り順調に進んでおり、来年度に向けて、より効果的で効果的な活動となるよう検証をしている。また、消極的な縮小ではなく、必要であれば、新しい連携事業についても、生徒への教育効果、地域連携・貢献等を検討し実施できるように検討している。 	B
			<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域に対して、学校の情報を多用に幅広く発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 メール配信 30回以上 3 HPの更新 25回以上 2 HPの更新 20回以上 1 HPの更新 20回未満 4 新聞掲載 20回以上 3 新聞掲載 15回以上 2 新聞掲載 10回以上 1 新聞掲載 9回未満 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新回数については、昨年度13回から60回と大幅に増え、学校行事や生徒の様子など情報を発信することができた。また、3校舎のHPのトップページを統合し、大津緑洋HPにリニューアルした。 ・今後は、メールを活用し、より保護者へ学校情報を提供し、積極的に学校行事等に参加していただけるように工夫していきたい。また、地域連携等の特色ある取組を報道機関を活用し、広く情報発信していきたい。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・地域の交流、学習の場とした学校開放に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 年間の学校来場者数が6,000人以上であった。 3 年間の学校来場者数が5,500人以上であった。 2 年間の学校来場者数が5,000人以上であった。 1 年間の学校来場者数が5,000人未満であった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・農高祭、野菜苗販売、直売所、小学校・保育園との連携事業などの学校開放による地域交流・貢献を積極的に学習に取り入れていることで、コミュニケーション力や道徳心の向上を含めた生徒の成長につながっている。 	
教務	分かる授業の実践に努め、学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業評価を反映した授業改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容に対する理解度(授業アンケートの項目で、「授業のポイントがよくわかる」)が、 4 3.8ポイント以上 3 3.7ポイント以上 2 3.6ポイント以上 1 3.6ポイント未満 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期末の授業アンケートの結果、3.8ポイントであった。今後とも生徒が分かる授業の推進に努めていきたい。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・全校体制での朝学の実施、繰り返し学習に重点を置き、学力の確実な定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学確認テストで、70点以上の生徒が、 4 全生徒の8割以上 3 全生徒の7割以上 2 全生徒の6割以上 1 全生徒の6割未満 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2学期の朝学確認テストにおいて、70点以上の生徒が80.5%であった。今後とも基礎学力の定着を図っていきたい。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習、ICTを活用した学習を取り入れ、生徒の活動意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの項目で「先生が準備する教材は解りやすく工夫されている」と、学習状況調査の項目で「解らない点は質問したり調べたりして解決するようにしている」が、 4 アが3.7ポイント以上で、イが3.2ポイント以上であり、作業的な学習活動がある。 3 アが3.7ポイント以上で、イが3.2ポイント未満であり、作業的な学習活動がある。 2 アが3.7ポイント未満で、イが3.2ポイント以上である。 1 アが3.7ポイント未満で、イが3.2ポイント未満である。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期末のアンケートの結果、「先生が準備する教材は解りやすく工夫されている」が3.8ポイントで、「分からない点は質問したり調べたりして解決するようにしている」が3.2ポイントであった。今後とも教員の指導方法の改善や、生徒の勉強する態度の向上に努めていきたい。 		
生徒指導	人間関係能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な人間関係を構築するための基盤となる基本的な生活習慣の確立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 基本的な生活習慣の確立が十分図られた。 3 基本的な生活習慣の確立が図られた。 2 基本的な生活習慣の確立がやや図られた。 1 基本的な生活習慣の確立が図られなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席、遅刻も少なく、毎月行う頭髪・服装指導においても軽微な違反者が数名いる程度で、基本的な生活習慣は確立されつつあるように感じている。自ら意識して行動できる生徒を増やしていくことが今後の課題と思われる。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・3キャンパス制のメリットを生かした体験活動を実践し、3キャンパスの一体感の醸成を図るとともに、他者理解の力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 3キャンパスの一体感の醸成が図られ、他者理解の力を高めることができた。 3 3キャンパスの一体感の醸成が図られ、他者理解の力をやや高めることができた。 2 3キャンパスの一体感の醸成がやや図られ、他者理解の力をやや高めることができた。 1 3キャンパスの一体感の醸成を図ることができず、他者理解の力をやや高めることができなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や野球応援、体験実習、各校舎行事等の様々な活動を通じて、他校舎への理解は深まってきているように感じている。今後は、3校舎の一体感が必要とされる部活動で、さらに成果を上げることがより一体感を高めることにつながるとともに、より他者理解の力が高まるものと考えている。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心とした交流を促進し、協調性やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、生徒の感性を磨く時間の設定に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 生徒の資質向上が十分図られた。 3 生徒の資質向上が図られた。 2 生徒の資質向上がやや図られた。 1 生徒の資質向上が図られなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心とした交流活動は、積極性を増し、校舎間のコミュニケーションを重視する意識が、生徒の間でも高まっているように感じる。本校舎内の活動においても生徒会を中心に生徒間のコミュニケーション能力が高まることともに、各行事が生徒の成長に良い成果をもたらしているように感じている。 		
生活支援	ヘルスプロモーションの視点に立った健康教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断及び事前事後の保健指導を充実させ、事後措置における受診率の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 健康に関心を持ち、事後措置における受診率が75%以上であった。 3 健康に関心を持ち事後措置における受診率が65%以上であった。 2 事後措置における受診率が50%以上であった。 1 事後措置における受診率が50%未満であった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・全体へ月1回、個人へ各学期末に保健指導を行い、受診率が71.7%であった。長期休業前の個別の保健指導が効果的であった。次年度は、さらに受診率を向上させていきたい。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における環境整美及び安全管理に努め、安心安全な学習環境を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 学校環境の美化・安全管理が徹底された。 3 学校環境の美化・安全管理が図られた。 2 学校環境の美化・安全管理があまり図られなかった。 1 学校環境の美化・安全管理が図られなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設・設備の点検を行い、危険箇所や修繕を要する箇所を確認した。事務と連携して、即時的な改善を図ることができた。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活リズムの確立と家庭学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が80%以上であった。 3 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が60%以上であった。 2 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が50%以上であった。 1 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が50%未満であった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂取率は、「毎日食べる」が79%、「ときどき食べる」が14%、「いつも食べない」が7%であった。また、睡眠時間に関しては、「6～7時間」が41%、「7～8時間」が33%であった。引き続き指導を行い、適切な睡眠時間の確保と朝食摂取率の向上に向けて取り組みたい。 		
保健体育	ヘルスプロモーションの視点に立った健康教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報の集約・共有を図り、効果的な教育相談を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 生徒情報の集約・共有を図り、効果的な教育相談を実施できた。 3 生徒情報の集約・共有を図り、教育相談を実施できた。 2 教育相談体制が、うまく機能しなかった。 1 教育相談体制が、機能しなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに生徒情報交換会を設定し、情報共有が図られるように努めた。また、スクールカウンセラーや関係中学校等の外部機関との連携を試み、教育相談活動の充実に努めた。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報の集約・共有を図り、効果的な教育相談を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 生徒情報の集約・共有を図り、効果的な教育相談を実施できた。 3 生徒情報の集約・共有を図り、教育相談を実施できた。 2 教育相談体制が、うまく機能しなかった。 1 教育相談体制が、機能しなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに生徒情報交換会を設定し、情報共有が図られるように努めた。また、スクールカウンセラーや関係中学校等の外部機関との連携を試み、教育相談活動の充実に努めた。 		

キャリア支援	進路指導	系統的・組織的なキャリア教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した進路指導により、望ましい職業観・勤労観を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 進路行事が進路選択に役立っているとの回答が80%以上である。 3 進路行事が進路選択に役立っているとの回答が70%以上である。 2 進路行事が進路選択に役立っているとの回答が60%以上である。 1 進路行事が進路選択に役立っているとの回答が60%未満である。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、3回の進路ガイダンス等を行い、70%が役立っていると回答している。今後さらに2回の行事を行う予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望に沿っている点は高く評価されている。これらを早くHP等で周知し、志願者増加につなげると良い。 ・専門性を持った高校なので、ビジョンをもって、より高い学力がつけよう希望する。 	B
			<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップや進路ガイダンス、学校・企業見学会を通して、自己理解を深め、進路意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 2年修了時に進路希望先が80%以上決まっている。 3 2年修了時に進路希望先が70%以上決まっている。 2 2年修了時に進路希望先が60%以上決まっている。 1 2年修了時に進路希望先が50%以上決まっている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者11名、就職希望者19名それぞれ希望校種・希望学科また希望職種について決まっている。なお、4名については現在保護者と話し合い中である。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな面談や課外授業、個別指導等を行い、個々のニーズに対応した進路実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 進路決定率が100%達成できた。 3 進路決定率が98%以上達成できた。 2 進路決定率が96%以上達成できた。 1 進路決定率が96%未満であった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した進路面談、ガイダンス、個別指導により、早い段階から希望進路を意識させることで、進路決定率100%を達成した。 		
農業	地域との連携を強化する。		<ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域連携協議会や地元の関係機関との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 延べ数で100団体以上の連携と交流を図ることができた。 3 延べ数で80団体以上の連携と交流を図ることができた。 2 延べ数で60団体以上の連携と交流を図ることができた。 1 延べ数で60団体未満としか連携と交流を図ることができなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・現在まで、約90団体と連携活動を行っている。地域連携協議会等を含めて、100団体以上との交流が見込める予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からの期待をうかがわせる高い数値を素晴らしく思うとともに、高く評価したい。 ・直売所では接客方法も学ぶことができる。また、コミュニケーション能力も向上する。 	B
			<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化の基礎を築くために、直売所を活用した教育を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 直売所の来客者総数が1,400人以上であった。 3 直売所の来客者総数が1,200人以上であった。 2 直売所の来客者総数が1,000人以上であった。 1 直売所の来客者総数が1,000人未満であった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所の来客数は、昨年より多く、27回の直売所運営で、2,199人の来客数があった。 ・今後も地域のニーズに合わせた運営を継続していきたい。 		
	農業に関する専門的な知識や技術を幅広く習得させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得を推奨し、学習意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年全員受検の日本農業技術検定3級 4 合格率が70%以上に達した。 3 合格率が50%以上に達した。 2 合格率が30%以上に達した。 1 合格率が30%未満であった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・12月に、2年生全員が受検し、受検者34名中21名が合格、合格率は61.8%であった。また、3年生は1学期に受験しており、3級合格率は94%となっている。(全国合格率:56.1%) 			
事務	学校運営の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・事務員と教員の連携を強化する。 ・校舎間の予算管理を円滑に行う。 ・適切な予算執行により、学校教育目標達成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 連携を強化し、学校教育目標達成のための予算執行を行うことができた。 3 連携を強化し、事務の見直しを行うことができた。 2 連携は強化したが、学校教育目標の達成には至らなかった。 1 連携の強化が、あまりできなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、各校舎の予算執行状況を共有し、また教員との連携も強化して学校運営が円滑に進むように、適切な予算執行を行うことができた。 ・学校教育目標の達成に向け、引き続き、適切な予算の執行に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい雰囲気への接遇に感心している。 ・電話対応はいつも丁寧な言葉で感じがよい。 	B	
	接遇の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・来客に対する接遇の向上(お待たせしない)を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 来客等の接遇が大幅に向上した。 3 来客等の接遇が向上した。 2 来客等の接遇があまり向上しなかった。 1 来客等の接遇が全く向上しなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の行事や授業変更等の連絡を密にしてスムーズな取次ぎができた。 ・今後、接遇方法の再確認をすることにより、さらに丁寧な接遇を心掛ける。 			

水産校舎				水産校舎			
学校運営等	水産校舎	<p>・水産校舎の特長を生かしながら、地域の企業、団体や学校等と連携した諸活動の目的を明確にした上で計画的に実施し、生徒の教育活動の質の向上を図る。</p>	<p>年度初めに地域連携の計画を立案し、その取組を</p> <p>4 90%以上実施した。 3 70%以上実施した。 2 50%以上実施した。 1 50%未満の実施であった。</p>	4	<p>・毎年、年間地域連携活動計画を立案し、組織的・計画的に実施している。</p> <p>・本年度は50の地域連携活動の計画を立て、日程の都合等で3つの活動が実施できなかった。実施率は、94%である。</p>	<p>・地元中学校との連携を進めることも必要。</p> <p>・実施率は素晴らしいが、実施後の評価や実施内容の評価が今後につながらず。</p> <p>・地域連携は生徒にとっても地域貢献となる。</p>	A
	総務	<p>円滑な業務遂行</p> <p>・十分な準備と確認を徹底する。 ・互いに尊重し、助け合って業務を行う。</p>	<p>4 行事等、概ね3週間前に準備、連絡調整、確認が適切にできた。 3 行事等、概ね2週間前に準備、連絡調整、確認が適切にできた。 2 行事等、概ね1週間前に準備、連絡調整、確認が適切にできた。 1 行事等の直前まで準備、連絡調整、確認に要した。</p>	3	<p>・3校舎総務課の連携、調整、準備等は適切にできた。(入学式、PTA評議員会・PTA総会、学校要覧作成、学習発表会、卒業式準備等)</p> <p>・水産校舎総務課は、課員が協力して準備等が適切にできた。(オープンキャンパス、慰霊祭、すいこう祭等)</p>	<p>・水産校舎の先生方はエネルギーが豊富で、元気をもらっている。</p> <p>・「概ね2週間前に準備できた」ことの評価が3なのか、「適切だった」内容が3なのか、分かりにくい。</p>	B
	教務	<p>基礎学力の向上</p> <p>・出席率の向上を図るとともに、担任、学年主任、他の分掌や各科と連携を行い、欠点保有者を減少させる。また、定期考査後に欠点2科目以上保有する生徒に対して特別指導を行う。</p>	<p>4 欠点保有者数が昨年度と比較して20%以上減少した。 3 欠点保有者数が昨年度と比較して10%以上減少した。 2 欠点保有者数が昨年度と比較して同程度であった。 1 欠点保有者数が昨年度と比較して増加した。</p>	2	<p>・昨年度に比べ、2、3年生は減少したが1年生では増加した。1年生では2科目以上の欠点保有者が多く、一部の生徒が多量の欠点を保有しており、授業態度を含め今後、学年を中心に学校全体で指導が必要である。</p>	<p>・難しい課題である</p> <p>・1年生の生徒の言動には幼稚さを感じることも多く、「適切だった」内容が3なのか、分かりにくい。</p> <p>・学校全体で学習意欲が湧く取組を。</p>	C
生徒指導	<p>基本的な生活習慣の確立</p> <p>・身だしなみの徹底(頭髪や服装)を辛抱強く、段階的指導で行う。 ・場面に応じた言動(立ち振る舞い)ができるように、学校生活のあらゆる場面で生徒とコミュニケーションを図り、その中で指導を行う。</p>	<p>4 頭髪服装検査での再検査率が全体の5%未満であった。 3 頭髪服装検査での再検査率が全体の10%未満であった。 2 頭髪服装検査での再検査率が全体の15%未満であった。 1 頭髪服装検査での再検査率が全体の15%以上であった。</p>	3	<p>・全体の再検査率は12月の頭髪服装検査終了時点で6.8%であった。高学年になるにつれ再検査率が高くなっている傾向がある。今後は上級生が模範を示すような取り組みをする必要がある。</p> <p>・今後に向けて、頭髪検査の実施を周知徹底することはもとより、平素から、校門指導やHRでの担任指導の中で、辛抱強く指導していきたい。</p>	<p>・問題行動の減少については、高く評価されて良い。ほめることに視点を置いた指導が効果的と思われる。</p>	B	
	<p>規範意識の向上</p> <p>・生徒への日々の声掛け、教員間の情報共有を密に早期発見、早期対応はもちろんだが、問題行動の未然防止も努める。</p>	<p>4 問題行動、指導を要する行動がほぼ皆無であった。 3 昨年度より問題行動、指導を要する行動が減少した。 2 昨年度より問題行動は減少したが、指導を要する行動についてはあまり変わらなかった。 1 昨年度より問題行動、指導を要する行動が増加した。</p>	3	<p>・今年度は昨年度に比べて、問題行動や指導を要する行動が減少した。生徒への日々の声かけや教員間の情報共有による早期の発見が、問題行動の減少に繋がっていると考えている。しかしながら生徒間の小さなトラブルや、今まで以上に指導を要する事案も発生している。また、多様化する生徒に対して生徒指導のあるべき姿について、今後十分な議論を重ねていく必要があると考えている。</p>	<p>・服装などの乱れは学校のイメージにつながるものが多く、教育相談などを通じて改善していく必要がある。</p>	A	
	<p>基礎体力の向上</p> <p>・学校行事や部活動を通して、体育授業との連携を図り、体力の向上に繋げていく事により、運動に興味関心を持たせ、自ら体力向上を実践する態度を養う。</p>	<p>4 体力向上に80%以上繋ぐことができた。 3 体力向上に70%以上繋ぐことができた。 2 体力向上に60%以上繋ぐことができた。 1 体力向上に60%未満であった。</p>	3	<p>・遠泳練習や駅伝大会の練習を通して、体力の向上に繋げることが出来た。また、バレーボールやバスケットボールの技術の向上に努力した。</p>	<p>・他校舎よりも治療率が高く素晴らしいと思う。</p>	A	
生活支援	<p>保健体育</p> <p>健康意識と治療率の向上</p> <p>・講演会や保健面談を通して自己の健康に関心を持たせ、健康意識の向上を図るとともに、クラス担任や進路、保護者と連携し、治療率の向上を図る。</p>	<p>4 治療率を70%以上達成した。 3 治療率を60%以上達成した。 2 治療率を50%以上達成した。 1 治療率が50%未満であった。</p>	4	<p>・講演会や保健面談の実施により、健康意識の向上を図ることができたと思われるが、継続的に指導して、行動変容を促していきたい。</p>	<p>・遠泳など水産高校ならではの特長を理解し、楽しみながら体力の向上につなげてほしい。</p>	A	
	<p>寮生の自主的な活動と自治能力の育成</p> <p>・寮務課および寮役員との定期会議を通じて、舎監と寮生との連携を図る。</p>	<p>4 月に1回のペースで会議を開催し、舎監と寮生の連携が充分にとれた。 3 月に1回のペースで会議を開催できたが、舎監と寮生の連携に課題が残った。 2 月に1回のペースで会議を開催できたが、舎監と寮生の連携がとれなかった。 1 月に1回のペースで会議を開催できなかった。</p>	3	<p>・舎監と寮生間との連携によって寮生が中心となった寮運営の礎を構築することができた。</p> <p>・来年度の寮運営をさらに改善していくために、寮務運営委員会を通じて共通理解を図る必要がある。</p>	<p>・寮での泊りを教職員の方が経験することで、寮生の気持ちも分り、生徒指導や基礎学力の向上につながると思う。</p> <p>・トイレ掃除について、トイレこそ皆が使うところであり、学年を問わず全員で行うべきである。</p>	B	
	<p>寮内清潔保持の確立</p> <p>・日頃の清掃活動を徹底し、学期末には寮生、舎監により大掃除を実施する。</p>	<p>4 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除に寮全体で取り組めた。 3 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除に舎監全体で取り組めた。 2 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除に寮務課で取り組めた。 1 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除が実施できなかった。</p>	3	<p>・大掃除では、各階の副寮長が指揮を執って実施することができた。また、洗面所やトイレは1年生を中心に清掃を実施できた。</p> <p>・大掃除に参加してもらえない教員が数名いた。</p>	<p>・大掃除の参加など、教職員全員が一体となり寮の運営をなすべきである。</p> <p>・生徒も教員も総出で大掃除することに意味があると思う。生徒にもその姿を見せることが大切。</p> <p>・生徒と教員間のさらなる取組を望む。</p>	B	

キャリア支援	進路指導	進路目標の早期設定	・生徒の進路希望情報を教員で共有する。(1学年:1月、2学年:11月、3学年:5月)	4 面談等の実施回数が4回以上であった。 3 面談等の実施回数が3回であった。 2 面談等の実施回数が2回であった。 1 効果的な面談等が実施できなかった。	4	・全校生徒を対象とした複数回の面談を実施すること目標に、進路指導課と学年会が協力しながら進路指導の充実に努力している。	・希望通りの進学については、指導あつてのことで、これらを広く知らせることも志願者増につながるのではないかと。	A
	進路希望の実現	・3年生の就職・進学希望者に対して、十分な情報提供を行い、希望先への内定・進学をめざす。	4 内定率が90%以上であった。 3 内定率が80%以上であった。 2 内定率が70%以上であった。 1 内定率が70%未満であった。	4	・就職内定率90%以上、進学もすべての生徒が希望校に合格するという目標は達成できた。 ・1、2年生においては、進路意識の向上に向け、面談等を継続する予定である。	・生徒の希望通りに進めることが一番で、先生方も生徒も素晴らしい。		
水産	海洋技術	目的意識の育成	・海技士教育を通して、実社会で役に立つ知識・能力と技術・技能を涵養し、必要な資格・免許を取得させる。	4 マリンマイスターのシルバー以上の取得者が7人以上であった。 3 マリンマイスターのシルバー以上の取得者が5人以上であった。 2 マリンマイスターのシルバー以上の取得者が3人以上であった。 1 マリンマイスターのシルバー以上の取得者が1人以下であった。	1	・本年度マリンマイスターシルバー以上取得者はは全校で5名(科学科4・技術科1)であった。 ・10月の時点で技術科3年生の資格取得に対する意欲が醸成できていなかったことや、シルバー以上の可能性がある生徒に対する働きかけが不十分であった。 ・年度初めからの全体への取組を、さらに組織的に推進する必要がある。	・資格取得をめざす学校としては残念と言わざるを得ない。1年生の時から意欲の醸成を図るべきでは。 ・取得者ではなく、目的意識の育成に主眼を置いてはどうか。	C
	海洋科学	産学公連携を通して、地域の活性化や社会へ貢献する取組の実践	・市の主催事業や、地域のイベント小中学校を対象とした講座等に参加実施する。	4 10団体以上と連携活動ができた。 3 8団体と連携活動ができた。 2 6団体と連携活動ができた。 1 連携活動した団体は4団体以下であった。	4	・今後の実施予定も含め計10団体と連携活動ができた。またその中で共同開発・改良した「炙りアカモク」が山口県水産加工展において長門市市長賞を受賞し、成果を挙げることが出来た。	・センザキッチンや地域の販売所で、水産校舎の名前を見るところうれしくなる。生徒は頑張っている。	B
	海洋科学	海洋科学科の維持、発展	・各コースの課題等を拾い上げ、会議や報告会を行い、今後の海洋科学科科について検討する。	4 1か月に1回以上会議を行った。 3 2か月に1回会議を行った。 2 1学期につき1回会議を行った。 1 1学期につき1回も会議できなかった。	2	・会議をもち、各コースの課題を議論したが、今後の海洋科学科の在り方について、具体的な解決案の検討をさらに進めなければならない。		
	専攻科	専攻科生として知性の育成と専門知識と技術の習得	・将来の船舶職員としての自覚にたつて、自ら学ぶ意識の向上と自ら問題を解決する力を養い、企業が求める人材の育成に努める。 ・専攻科2年生全員の三級海技士の免許習得を目指す。	4 進路目標を全員が達成できた。 3 進路目標を8割の生徒が達成できた。 2 進路目標を半数以上の生徒が達成できた。 1 進路目標を殆どの生徒が達成できなかった。 4 全員が三級海技士の資格を取得した。 3 8割の生徒が資格の取得ができた。 2 半数以上の生徒が資格の取得ができた。 1 殆どの生徒が資格取得できなかった。	4	・進路については、航海科5名全員が内定。機関科については3名全員が船舶会社からの内定をもらっている。 ・特に、航海科では、水産庁・海上保安庁に合わせて2名の合格者を出した。 ・令和2年三月に実施された3級海技士(口述)試験において、専攻科2年全員が合格し、将来の士官に向けての第一歩を踏み出すことができた。	・専門的な知識を身に付け、水産校舎から活躍する子どもたちを見るのは、地域住民にとってもうれしい。大きく羽ばたいて欲しい。	A
事務	学校運営の活性化	・事務職員と教員の連携を強化する。 ・校舎間の予算管理を円滑に行う。 ・適切な予算執行により、学校教育目標の達成を図る。	4 3つの具体的方策が十分に達成されている。 3 2つの具体的方策が十分に達成されている。 2 1つの具体的方策が十分に達成されている。 1 どの具体的方策も十分に達成されていない。	3	・昨年度より、毎月各校舎の予算執行状況を共有していることから円滑な管理を行うことが出来ている。教員との連携をはかり効率的な予算執行及び、予算要求ができた。 ・学校教育目標の達成に向け引き続き適切な予算執行に努めたい。	・明るくハキハキした対応ぶりは素晴らしい。	B	
	接遇の向上	・来客に対する接遇の向上(お待たせしない)を図る。	4 来客等の接遇が大幅に向上した。 3 来客等の接遇が向上した。 2 来客等の接遇があまり向上しなかった。 1 来客等の接遇が全く向上しなかった。	3	・当日の行事や管理職の動静を毎朝のミーティングで徹底することにより、来客対応や電話取次を円滑にできるように努めてきた。 ・事務室が手薄な折には、急な来客に戸惑うこともあったが、接遇方法を再確認することにより、対応が向上している。	・電話での言葉遣いは良い。		

5 学校評価総括(取組の成果と課題)

【3校舎共通】

- ・学校運営協議会を計画的に開催した。引き続き、協議会での意見を学校運営に反映しながら、コミュニティ・スクール及び魅力ある学校づくりの取組を推進する。
- ・地域と連携した取組では、3校舎生徒会が「探究心 ～ more than best ～」のスローガンの下、ラグビーワールドカップホストタウン事業を起点とした国際理解の取組を進めた。また、長門市の様々な行事へのボランティア活動参加等により、連携の質は高まっている。今後とも、地域と連携した活動を利用して教育目標の達成に向けて努力する。
- ・体験乗船や農業体験に加えて、毎学期、3校舎が一体となる学校行事(1学期には野球応援、2学期に合同学習発表会、3学期に合同スポーツ大会)を実施した。これらの行事を継続するとともに、特に来年度は開校10周年にあたり、学習発表会において記念行事を行い、学校の一体感のさらなる醸成に努める。
- ・学校ホームページについて、3校舎一体となったトップページを構成するとともに、スマートフォンにも対応するなど、完全リニューアルを行い、情報発信力を高めた。
- ・「働き方改革」を進め、業務の効率化とICT化に取り組み、時間外業務時間の削減に一定の成果を見た。
- ・開校10周年を控え、学校評価アンケートや授業評価アンケート等を通じて各校舎の課題抽出を図り、新たな10年を見据えた「学校経営ビジョン」の策定に取り組んだ。
- ・PTA活動では、各校舎で開催される文化祭、農高祭、すいこう祭などの行事において、校舎を越えた活動に参加していただき、相互理解を深めることができた。今後も継続した取組が大切と考える。

【大津校舎】

(学校運営)

- ・コミュニティ・スクールの機能を活用しながら地域や企業等との連携の下、各業務の現場で実践的・体験的な実習を行うインターンシップや、地域の歴史や伝統文化等を学ぶ長門学、水産業が抱える課題の解決に向けた研究活動等の充実を図ることができた。今後も、コミュニティ・スクールの機能を活用しながら課題解決学習の充実を図り、生徒一人ひとりの進路実現につなげていく必要がある。
- ・中馬高校交流事業では、5年ぶりに本校の生徒が中馬高校を訪問し、課題研究やホームステイをとおして交流を行うことができた。訪問後もSNSを介した交流が続いている。また、ラグビーワールドカップカナダチームを迎える長門市の機運を高めることを目的として、カナダの高校生と交流を図ったり、ワールドカップセレモニーの運営に携わったりしたことで、異文化理解の深化を図ることができた。今後も生徒会活動で取り組んでいるカナダの高校生や地元へ本拠地を置くラグビー外国人選手との交流、国際交流員による講演等を計画的・系統的に実施し、国際教育の充実を図る必要がある。
- ・学校案内パンフレットやホームページ等の見直しを行い、進学実績や3キャンパス制のメリット等を分かりやすいものにした。今後も本校に魅力を感じてくれるよう、PR活動の工夫を図る必要がある。

(学習指導)

- ・朝学習や週末課題、課外授業等では授業や模試とのつながりを持たせながら指導の充実を図った。少人数指導・習熟度別指導では、定期考査や模試の分析を行いながら、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導に努めた。
- ・本校の特徴である65分授業を活かしてアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業など、主体的・対話的で深い学びを促す授業の充実に向けて3校舎間や中学校と連携しながら研究授業、研究協議等を行い、基礎・基本の定着、思考力・判断力・表現力等の育成に努めた。その結果、授業評価アンケートによる生徒の授業に対する満足度は高く、今後も生徒の実態を踏まえながら、生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業づくりに向け積極的に研究授業・研究協議に取り組む。授業力の向上に努めていく必要がある。

(進路指導)

- ・大学訪問や大学による出前講義や生徒が希望する事業所でのインターンシップ等の学習を系統的に実施し、それぞれの学びを小論文につなげることで、生徒の主体的な進路意識の高揚を図った。
- ・生徒が自らの進路を主体的、段階的に考えていくことができるよう、新たにキャリアパスポートを活用しながら系統的・計画的な指導に取り組む体制を構築した。
- ・生徒の進路実現に向けて、新しい大学入試制度の動向を注視しながら、保護者会の形態や内容など、1、2年次の進路指導を充実させる必要がある。

(生徒指導)

- ・生徒は落ち着いて高校生活を過ごしているが、今後も、自己の行動を自ら律する力の育成に向けて、ルールの意義等を伝えながら組織的に指導を重ねていく必要がある。
- ・学校行事や生徒会活動、部活動、地域と連携したボランティア活動等は、生徒の自己有用感を高め、主体性や自主性の育成につながっている。今後も、各実行委員や生徒会役員等を中心としながら全生徒が主体的に取り組む活動となるよう、学校行事等の内容を精選・充実させていく必要がある。

(保健指導)

- ・多くの生徒が主体的に健康や体力の保持増進に努めているが、検診後の事後措置の徹底が不十分である。今後も全生徒の健康管理意識を高めることができるよう、保健便りや全校集会、保健委員会活動を工夫しながら計画的・系統的に指導していく必要がある。
- ・環境整備について、安全面と同時に衛生面から定期的に点検し、本年度は水回りの清掃活動を強化した。今後も改善が必要な部分は保健委員会を中心とした活動として全校生徒で取り組む必要がある。
- ・いじめ等の未然防止・早期発見に向けて個人面談や定期的なアンケートの実施により情報共有に努めるとともに、気になる事案については全教職員やスクールカウンセラー、中学校等と連携を図り、組織的に取り組んだ。今後も、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けて、組織的な支援体制の強化を図る必要がある。
- ・合理的配慮をテーマとした教員研修を実施し、通級指導に向けて理解を深めるとともに教育課程の見直しを行った。

【日置校舎】

(学校運営・地域連携)

- ・地域をフィールドとした連携・貢献活動を積極的に実施した。また、直売所や苗販売、農高祭や小学校、保育園との連携、子育て広場など多くの学校開放の取組で、多くの地域の方に生徒の活動を公開することができ、生徒の自己有用感、達成感、充実感の向上に繋がっている。本年度新しい取組にも積極的に取り組み、生徒の活動のフィールドは広がっているが、今後内容や活動自体の精選が必要である。

(学習指導)

- ・「分かる授業」の取組としてICTの活用やアクティブ・ラーニングの導入により生徒の理解度が向上し、授業評価も高い数値となっているが、生徒の基礎学力の定着や成績不振者の指導については、日置校舎ならではの個別指導の充実にある。今後も教員相互の授業改善に対する研修や継続した個別指導の充実が必要である。

(生徒指導・保健体育)

- ・服装、髪型を含めた生活面については、きめ細やかな指導で生徒個々の基本的な生活習慣は確立しつつあるが、自己を振り返り、現状を把握して自主的に行動できるまでには至っていない。今後も自己指導能力の向上に向けた取組を行い、生徒の自律心を育成していく必要がある。
- ・健康診断及び事前事後の保健指導の充実、保健だよりの活用により、生徒の健康意識は向上し、事後措置における受診率は向上しつつある。今後も健康意識の向上のための取組に工夫が必要である。

- ・本年度、グラウンドの管理・美化について保健体育を中心に全校で行う体制を整備した。今後も生徒の校内外の美化意識の向上と生徒数減に伴う学校の緑化・美化体制の整備が必要である。

(進路指導)

- ・3年間を見通した進路指導計画に従って、きめ細やかな面談や個別指導、進路ガイダンスや進路講話等により3年生は早い段階での希望進路先を決定し、本年度も進路決定率は100%を達成した。本年度新しく計画・実施した進路に係る生徒研修や進路ガイダンスを充実させ、1・2年次での進路意識の醸成に努めていく必要がある。

(農業)

- ・本年度も地域や関連産業との連携活動を積極的に取り組み、また直売所の運営を含め、より実践的・体験的に農業の専門的な学習と6次産業化に向けた学習を行うことができた。また、日本農業技術検定をはじめ様々な資格取得やプロジェクト学習に熱心に取り組む、アグリマイスター顕彰で多くの生徒が表彰され、学校表彰も受賞、プロジェクト発表でも3年連続全国大会に出場し、生徒の向上心に繋がっている。今後もこの取り組みを継続していきたい。

【水産校舎】

(学校運営・地域連携)

- ・実習船の代替船建造の時期を迎え、3県合同実習の在り方などの検討を進めている。実習船教育部の担当として、実習船指導マニュアルの改訂や緊急対応訓練の実施等を行った。

- ・地域や関係機関と連携した活動では、沿岸漁業後継者の育成に向け、県農林水産部・漁協と連携した生徒・保護者を対象に漁業就業支援説明会を実施、生徒約20名が参加した。またこれまでも行ってきた、市や漁協と連携したアワビの放流・育成場整備やナルトビエイの駆除活動、地元小学校と連携した食品製造体験授業などを継続した。また、地元漁協女性部と連携した合同実習の中で、新製品「炙りアカモク」を開発し、県水産加工展で「長門市長賞」を受賞するなど、地域の活性化に貢献するとともに、生徒の学習活動・体験活動の成果を上げることができた。

- ・体験型オープンキャンパス、中学校訪問に加え、昨年度から開始した12月の「生徒・保護者向け学校説明会」には、27家族の参加があった。今後も粘り強く生徒確保に向けて取り組む。

- ・「日本海南部地区カッターレース大会」「日本海南部地区水産教育研究協議会」「全国水産・海洋系高校生生徒研究発表大会」については、関係各位と連携し、円滑な運営ができた。

(学習指導)

- ・学習面では、学年により欠点科目保有者が増加している。学習状況や出席状況は改善が見られるが、苦手科目の取組状況等に引き続き課題が残った。基礎基本の修得に向け、さらなる授業改善、再考査等の個別指導の充実が必要である。

(生徒指導)

- ・生活面では、アンケートや相談活動、情報共有の充実等、未然防止の取組を推進しているが、些細なことで指導する場面が増えており、引き続き、規範意識の向上に向け、よりきめ細かな指導と保護者や関係機関・専門家との緊密な連携が必要である。
- ・生徒会活動の活性化を図り、すいこう祭における生徒会アトラクションやすいこう祭前日祭を7年ぶりに実施し、生徒の達成感や満足感の向上につながった。

(進路指導)

- ・進路指導では、好調な求人状況を背景に、企業・上級学校と連携した進路ガイダンスの実施や、きめ細かな全員面談、事前指導の充実により、2学期中にほぼすべての生徒の進路を決定することができた。最後の1名も専門学校への進学を決めた。

- ・漁業の担い手育成に力を入れている中、本年度は5名、漁業に就業することとなり、成果が実を結んだ。全体としても専門学校としての特長を生かし水産関係の進路選択が7割を超えている。

- ・進学面では、長崎大学水産学部、水産大学校、国立海技短期大学等への合格を果たした。

- ・専攻科では、水産庁、海上保安庁への就職が決まり、水上公務員への道を拓いた。

6 次年度への改善策

【3校舎共通】

- ・学校運営協議会での議論を踏まえながら、長門市唯一の公立高校であり3校舎を有する本校の特長を生かした、「地域とともにある魅力ある学校づくり」を推進する。
- ・開校10周年にあたり、記念行事を催すとともに、大津緑洋高校の新たな10年を見据えた「学校経営ビジョン」を策定する。
- ・あくまでも生徒を中心に、家庭・地域と連携した取組を進める中で、引き続き連携活動の質の向上に努める。
- ・新たなホームページのコンテンツを充実させ、地域及び小・中学校の児童生徒、保護者、教員への本校の魅力発信力を高める。
- ・体験乗船や農業体験に加えて、3校舎が一体となる学校行事を継続・充実させ、校舎間連携教育活動及び学校の一体感の醸成に努める。
- ・PTA総会やその他のPTA行事等において、3校舎間の保護者が共通理解・相互理解を深める企画を実施する。

【大津校舎】

- ・コミュニティ・スクールの機能を活用しながら地域や企業等との連携の下、地域の歴史や伝統文化等、長門市の状況等について広く学び、地域の活性化に向けて課題解決学習等に取り組む「長門学」の充実を図り、生徒一人ひとりの進路実現につなげていく。
- ・中馬高校交流事業、カナダの高校生や地元の本拠地を置くラグビー外国人選手との交流、国際交流員による講演等を計画的・系統的に実施し、国際教育の充実を図る。
- ・中学生が本校の学校案内パンフレットやホームページ等とおして、本校で学ぶ姿や将来の自分を描くことができるよう、学校案内パンフレットやホームページ等の見直しを行うとともに、オープンキャンパス等の工夫を図る。
- ・朝学習や週末課題により家庭学習の習慣や基礎学力を身に付けることができるよう、課題や指導の在り方を検討する。
- ・少人数指導・習熟度別指導では、定期考査や模試の分析を行いながら、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導に努める。
- ・本校の特徴である65分授業を活かし、生徒の実態を踏まえながら、生徒の学習意欲を高めるとともに分かりやすい授業づくりに向けて積極的に研究授業・研究協議に取り組み、授業力の向上に努めていく必要がある。
- ・大学訪問や大学による出前講義や生徒が希望する事業所でのインターンシップ等の学習を系統的に実施し、それぞれの学びを小論文につなげるにより、生徒の主体的な進路意識の高揚を図る。
- ・生徒が自らの進路を主体的、段階的に考えていくことができるよう、新たに作成したキャリアパスポートを活用しながら系統的・計画的な指導に取り組む。
- ・生徒の進路実現に向けて、新しい大学入試制度の動向を注視ながら、保護者会の形態や内容など、1、2年次の進路指導を充実させる。
- ・自己の行動を自ら律する力の育成に向けて、ルールの意義等を伝えながら組織的に指導を重ねていく。
- ・学校行事や生徒会活動、部活動、地域と連携したボランティア活動等において、各実行委員や生徒会役員等を中心としながら、全生徒が主体的に取り組む活動となるよう、学校行事等の内容等を精選・充実させていく。
- ・全生徒の健康管理意識を高めることができるよう、保健便りや全校集会、保健委員会活動を工夫しながら計画的・系統的に指導していく。
- ・環境整備について、保健委員会を中心とした活動とし、全校生徒で取り組む。
- ・いじめ等の未然防止・早期発見に向けて、個人面談や定期的なアンケートの実施により情報共有に努めるとともに、気になる事案については全教職員やスクールカウンセラー、中学校等と連携を図り、組織的取り組み支援体制の強化を図る。

【日置校舎】

- ・リニューアルしたホームページを有効に活用し、地域連携・貢献活動、学校開放、学校行事など生徒の活動をしっかりと発信し、「地域と共にある学校づくり」を推進すると共に、日置校舎の魅力と学校理解を広げていくことで生徒募集に繋げていく。
- ・学校・地域連携協議会について、地域連携活動の現状に合った見直しを行い、より効率的で現実的な活動に繋がるように協議会の委員の選出等を行っていく。
- ・農業のプロジェクト研究に限らず、生徒会活動や家庭クラブ活動、ボランティア活動等地域をフィールドとした活動を推進し、地域資源の活用、地域の問題解決に実践的に取り組むことで、地域を知り、地域に愛着を持ち、将来地域を支える産業人の育成を行っていく。
- ・ICTの活用、アクティブ・ラーニングの推進を図り、より分かりやすい授業の展開を目指す。また、相互教科を超えた授業見学や研究授業による授業力アップのための研修の機会を増やしていく。
- ・教育相談・支援体制を充実させ生徒理解を深め、生徒個々への指導・支援体制を強化する。また、生徒自身の振り返りや規範意識の向上に向けた研修や講話等を企画し、生徒の自己肯定感、自己有用感、自己指導能力の醸成を図る。
- ・健康診断の事後措置における受診率の向上のための取組を工夫し、生徒の健康意識の向上と自己管理能力を育成する。また、学校の緑化・美化活動を推進し、学習環境の改善に取り組む。
- ・3年間を見通した進路指導計画を実践し、1年次から進路ガイダンス、企業見学、進路講話等を企画し、生徒の進路意識の向上を図る。また、キャリアパスポートの有効活用について検討する。

【水産校舎】

- ・県内唯一の水産科専門高校として、地域密着の教育活動を展開しながら、本校舎の使命である「水産のスペシャリストの育成」を推進していく。
- ・全国的な若者の水産離れや少子化への対応が喫緊の課題であり、次世代創生委員会を中心に、全国の水産・海洋系高校と情報連携を深めていく必要がある。
- ・地域連携、地域貢献の活動の充実と働き方改革の両立を図るため、校内フェスタ委員会等により、実施体制や年間計画の見直しと進捗状況の確認等を行っていく。
- ・学習活動では、生徒の基礎学力の向上に向け、全教員が授業改善に努めるとともに、粘り強くきめ細かい指導をしていく。
- ・生徒指導では、引き続き、生徒理解の視点からの相談活動の充実や情報収集・情報共有に努め、問題行動や不登校等の未然防止に向け、組織的に取り組む。
- ・進路指導では、1・2年時からの面談等の充実により、進路意識の醸成・進路希望の早期決定を図る。また、ガイダンスの実施や分掌の連携など組織的な指導体制を充実させ、生徒の進路希望の100%実現をめざす。
- ・保護者や地域、関係機関のアドバイス等を参考にしながら、特長ある教育活動の充実と教職員の資質向上に努めることにより水産校舎の魅力を高め、入学志願者の増加につなげていかなければならない。生徒募集に向けた情報発信等にもさらなる工夫・改善を行っていく。